明治三十七年九月一日時事

一〇タイムスの日露戰爭批評（百二）

（八月三十一日所論）

露軍追ひ込まる

八月二十四日より同二十六日に至る三日間に於ける日本進軍の大體の結果は即ち七月二十四日以來倦むことなくして繼續されたる追込み運動に更に一段の進歩を現し來たりたるにありとす

遼陽の南方及び東方廣濶なる弧線に於てクロパトキンの占めたる陣地は其軍隊に直接決勝的行動を加へんとするに於て敵をして地域の餘りに廣濶なるを感ぜしめクロパトキンは之に充分その動作の餘裕を得たり是を以てかの之に對する攻擊は其全正面に加へられたりと雖も其南方濶闊したる方面よりせるものは寧ろ示威の性質をのみ有したるものにして急激なる攻擊は專ら東方よりして之に下されたり之に依りて滿洲軍隊の最も精鋭なるもの即ち第十及び第十七軍團の一部は重ねて敬意を受くるあたはざしく其陣地よりして再び逐ひ出さるるに至れり

此戰鬪に關する日本の報告遂に達するに至らば我等は思ふに安平及び湯河下流に於ける露軍敗戰の第一報の之を告げたるよりも更に一層の其だしかりしものありしを明にするを得べし歐洲より出でたる軍隊は之を回復するの望みは存するに當りて決して其砲門を放棄するものにあらざるべく又二十六日東方前面に於てのみ既に千五百の損害を出したるを承認したるは之を以て其戰鬪の劇甚なりしを表明する充分の證據なりとするに足れり攻擊地點の此選擇は日本に取りて確に其正を得たるものなり露國司令官は其交通線に並行して其陣地を選擇するに於て移すべからざる偏癖を有す敵みの事實を看破して退却線に最も近き其翼面に攻擊を加へ其攻擊に成功せば此陣地遺擇方の不利は直に表白し來らざるを得ず是迄ある理由ありて日本軍は南方より專ら其壓迫を加へ來れり此理由に至りては我等今茲に之を論究するの必要あるを見ず此方法に依りてする壓迫は轉た益々露軍に其集合を便せしむるのみにして斯くの如き冒險性なき敵に對し其決勝的成効を期し得べき所以の道にあらずとせざるべからず八月二十六日に至り日本の右翼は初めて其本來の役目に當り攻勢的翼軍として行動し露軍の左翼は爲めに甚だしく擊破されクロパトキンが展開の主義は一舉にして盡く紙製の家の如くに吹き倒されたり遼陽直南の陣地に向け總退却は蓋に止むべからざるに至り後衛として行動せる四箇軍團の兵に捲殺され各方面より其輜重纔刻を率ゐる長部隊みな遼陽の檻に落ち行かんとし兵馬遠く附近の原野を蔽へり露軍の擾亂實に甚だし鞍山店は五個の五角形角面像壘壕及び副防禦とを有する其重要の陣地なり之を放棄するに至りたる一條の談は頗る趣味なしとせざるべし佛國新聞記者の率直に白狀したる所に據るに日本軍に『明朝大損害を受けしむる筈なり』とある其地點は即ち此鞍山店なりと云ふ普通なる常識の運用に依りて日本軍が易々に露軍折角の此娛を破壞し了りたるに對しては露軍斷じて之を許すみ能はざるべし八月二十七日日本軍の之に其追擊を加へざりしは頗る其當を得たるものなり何となれば其第一の目的は之に依りて既に達せられたるを以てなり日本軍は即ち之に依りて露軍を其局限したる陣地内に追込むことを得たるものなり追擊を行はざるまでも其陣地に於て有力なる打擊は之に加ふることを得べし遼陽に敵軍の集合は野津將軍の隊と聯擊して第二軍に敵を其南方正面に牽制せしめ同時に第一軍をして二道河を經煙臺に行進するの目的を以て太子河を渡るを得るに至らしむるものなり此運動は云ふまでもなく單に想像に過ぎず形勢の今一層明瞭なるに至るまでは自らにして延期さるべしとあるべし然れども全體の趨勢に見て

太子河數箇所に架橋し遼陽よりの露軍の退却を遮斷する爲め全速力を以て之を渡るを得るの準備を行ふゝと第一軍に取りて即ち緊要ならざるまでも亦之を行うて敢て其妨あるべきものにあらずとす遼西にあるべしと想像さるる日本の纔隊その存在固より不確なれども若し實際に存するものなりとせば是れ單に押へとして存するに過ぎざるべし主要なる强行動を挑るものは今集合したる其聯合軍ならざるべからざるなり

遼陽決戰の開始

今現存する双方の兵力は思ふに詩大に過ぎたるものあるが如し之を確言するゝは固より我等の能くする所にあらずと雖も第十七軍團最終部隊及び豫備兵を以て組織されたる第五西比利亞軍團の後發隊今や急く露國軍隊に合したりと見るは要するに無事なる算定とせざるべからず果して然りとせばクロパトキンは既に十四乃至十五箇の步兵師團と外に少なくも一萬五千の騎兵を有すべし内より病傷者を引去らば即ち其兵力約十六萬、砲五百門なりとすべし之に非戰鬪員及び附屬員等を加ふれば其數必ず大なるべくツイガルグ聯隊を其先發隊として七月廿四日より鞏固なる防壁を發し初めたる第一軍團いさ緩々として戰地へ向け其來着の途にある今日の多數の人員にも亦その食料を給せざるべからずとせば露國の勢ま力、頗る甚だしかるべきなり日本の兵數に於て著しく優勢なるは理に於て明白なり其指揮に於て且つ一般の軍事的實力に於て日本如何ばかり遜劣に優れるやは戰鬪の經過遂く既に之を表明せり我等の全く知るゝと能はざる點は太子河の北方、奉天の南方に於ける露國軍隊の配置なりとす此方面に諸般の準備は或は既に之を行ひたるゝとあるべしクロパトキンが其大纔軍の少なくも一部分を既に北方に途致したるは我等の知悉せる所なり常に將軍の心中に起る副案は明に退却の一事なり此事實は日本必ず能く之を覺りたらざるべからず少なくも新着第五西比利亞軍團は太子河以北にあるもの丶如く其各單位の未だ曾て交戰したるゝとなき第十七軍團の第三師團また或は河北に存すべし渡河既に行はれたりとの報至らば太子河以北の其陣地に增援する爲めクロパトキン遼陽の集團中より更に其兵を發すべきは即ち自然の結果なりとす

遼陽の陣地に關しては既に簡短に之を叙述したるゝとあり市街の南方及び東南方四哩乃至六哩の距離に蜿蜒し長約八哩に達す其南方頗る强大にして東南方にゝよび東方殊に强大なるも西方は濶開せり何れの場合に於ても露軍を此陣地に抑留し從かんが爲め之に攻擊の加へられたるべきは之を想像するに難からず點攻擊南方よりして激烈に加へらるゝや否やは一にクロパトキン將軍の取るべき方針と太子河北方に於ける日本縱隊の進步と運命如何とに係りて存すべしとせざるべからず

我等は八月二十九日と同三十日に於ける經過に關してサハロッフ將軍よりの二通の報に接するを得たり其第一報は日本軍露軍陣地に近接し來たり二十九日午後二時より七時に至るまで之に砲擊を加へたるを云ひ且つ大露營の西南方に見られたるゝと及び北方に於て鐵道の西方に敵對運動の認められたるゝとを稱するものなり第二報と雖も亦昨日(三十日)午前十時迄での事實を我等に傳ふるのみクロパトキンの參謀總長は即ち我等に報じて曰く月曜日(二十九日)夜中敵は多數の砲を其陣地に据ゑ付け午前五時より全線に於て其攻擊を開始し殆んど間隙なふる所に從へば砲戰頗る猛烈を極め露軍は若干の地點に於て大損害を負ひ午前九時日本軍は露軍の前進陣地に頗る接近し來れりと云ふ此大戰場より得たる獨逸の報道は即ち其後の事情をも亦之を傳へり然れども之を要するに其砲戰既に激烈なりしに關せず其しき步兵攻擊の加へられたるは其證跡未だ

溺め難きに似たり

此强大にして且つ周密なる準備の加へられたる陣地に對し日本軍は果して其直接强擊を用ひんとするものなりや或は夜襲を試みんとするものなりや或はクロパトキンの前面に對する其把獲の緊密なるに至り軍隊に其遠くべからざる道援に備ふる爲め堅壘を擴張せしむるまで徐に其別働隊の太子河を渡り潛行するを待ち單に其現在陣地にクロパトキンを抑留し置かんが爲め之に示威運動を行ひ居れるものなりや此等想像中その何れの當れるやを判斷せんとするには尚ほ之が證跡を待ざるべからず然るに今に於て直に之に其斷論を加へ得る人ありとせば我等は之を以て頗る大膽なる人なりとせざるべからず蓋我等の知れる所は日本軍頗る其地理に通せり八月二十四日より同三十日に亘れる其豫備行動の全部は確定の計案に成るものなりと云ふにあり其勝敗如何に拘はらず日本は此一戰を以て其決勝戰と爲さんと欲するものなるは我等之を確信して可なりとす

軍事上秘密の必要

軍事的行動に於て秘密の如何に貴ぶべきものあるか又日本の參謀部が其敵の面前に山縣の二箇の目的を掲げ來りたる其計策如何に巧を極めたるやは決戰の行はるゝ其日に至るまで大陸及び其他の批評家の殆ど其眼の下に行はれ居れる事實を全然正當に解釋するゝと能はざりしの實最も明白に之を證明し得たり重もなる大陸の諸新聞紙が其全一段を費して日本の注意の全く旅順口に集中されたるを云ひ又大山元帥攻城戰を掩護する爲め好防禦陣地を尋ね居れりとの事を稱したるは僅に去る日曜日(二十八日)の事なりとす本問題には自ら又他の異說ありたり茲に之を暴露し來たらんゝとは恐らく怨を買ふの所以たるを免れざるべし然れども山縣の取れる方針には自ら之を探るべき緒あり堅く之を握りて我等を迷はさんとする一切の風說流言に其耳を假すゝとなければ其方針の全部は之を探知するゝと亦毫だ難からざりしなり我等の先づ自ら考ふべきは即ち日本實際の軍事上利益何れにありやとは云ふにあり

目下の場合に當りて日に其弱を加へんとするか或は日に其强を加ふるか可なりや或は日に其强を加ふる救援軍隊に對して之を用ふるを可とするや

旅順日に對する重もなる利益は初めより其要塞に懸けられたるにあらず又その港灣たるにあらず實に其軍艦のみ八月十日その止むを得ざるに出でたる突出は即ち之が海軍離鳥の巢立ちを行ふに至りたるものなり親鳥たに之を殺さば雛鳥の自らにして倒るゝものなるは各狩獵家の皆疾くに知曉せる所なり旅順日には尚ほ損傷せる五隻の戰鬪艦あり攻圍の軍事上實際の利益は一に集められて此上に存せり然れども クロパトキン ——是れ全く別問題なり旅順日の士氣は常に懸りてクロパトキンが率ゐる軍隊の上にあり過去數月間の由來事は皆クロパトキンに對する戰鬪振りの結果なりとせざるべからず

近日彼等の奥の率ゐる諸師團旅順日に發遣されたりとの報に接し又ゲドケ大佐より大佐の露軍參謀と共に此說を借するものなる由の報を得たるに當り我等は奇異に感に堪へず敢てクロパトキンの寧ろ此反對の行動を愛ふるに足るべき理由あるを辯ぜり日本の如き參謀部の中央に其位置を構へて誤解に乘ずるの機を誤り又ナポレオンの大準則——即ち戰鬪切迫せるに當たり其兵を聞くべからずとの——を無視するが如き蓋しあるべからざる事なり

旅順日攻圍軍及び大山の軍は鐵道及び汽船に依りて容易く相交通するゝとを得べし條蹄の嚮に要塞の周圍に設けられたる今日三萬の兵を以てステッセルを把持し其殘部を移して北方に用ふるが如き蓋し易の易なるものなり

（三十一日所論）

然れども クロパトキン は常に旅順日の士氣に懸りてクロパトキンが率ゐる軍隊の上にあり過去數月間の由來事は皆クロパトキンに對する戰鬪振りの結果なりとせざるべからず

近日彼等の奥の率ゐる諸師團旅順日に發遣されたりとの報に接し又ゲドケ大佐より大佐の露軍參謀と共に此說を借するものなる由の報を得たるに當り我等は奇異に感に堪へず敢てクロパトキンの寧ろ此反對の行動を愛ふるに足るべき理由あるを辯ぜり日本の如き參謀部の中央に其位置を構へて誤解に乘ずるの機を誤り又ナポレオンの大準則——即ち戰鬪切迫せるに當たり其兵を聞くべからずとの——を無視するが如き蓋しあるべからざる事なり

旅順日攻圍軍及び大山の軍は鐵道及び汽船に依りて容易く相交通するゝとを得べし條蹄の嚮に要塞の周圍に設けられたる今日三萬の兵を以てステッセルを把持し其殘部を移して北方に用ふるが如き蓋し易の易なるものなり

（三十一日所論）

十月七日特下、

○タイムスの日露戰爭批評（百三）

（軍事發電來九月一日所論）

遼陽の正面攻擊

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/